

【パネルディスカッションの要旨】

市民によるヘイトへの対抗として、毎年3月に「マーチ・イン・マーチ」デモを実施し、「私たちはここにいる」という可視化を続けている。

「外国人材」「秩序ある受け入れ」政策に根本的な違和感がある。

高市政権が使う“外国人材”という言葉は、安倍政権期に作られた概念で、外国人を「使えるかどうか」で評価する非人間化の言語である。“秩序ある受け入れ”“秩序ある調整”は、外国人を「秩序を乱す存在」と前提し、偏見を前提にした語法である。

日本は深刻な人手不足で外国人労働者を必要としている。しかし在留手続きのデジタル化や制度の複雑化で生活は困難に。車が生活必需品の地域でも免許更新が困難になるなど、生活の基盤が脅かされている。労働力としては必要なのに、生活環境は悪化している。

「外国人はルールを守らない」というミスリード。犯罪率が高いという根拠はなく、実際は極めて少ない。多くの「ルール違反」報道は観光客に関するものだが、オーバーツーリズムを招いたのは政府の政策である。また、社会保険加入などは本来企業側の責任であるはずなのに、外国人個人の責任にすり替えられている。

入管政策と「ゼロプラン」の問題については、不法滞在者「半減計画」からの治安悪化は確認されていない。抽象的な“ルール”を使い、管理強化の根拠にしている。

野党まで“外国人脅威論”に影響されている。土地規制など、事実確認のないまま“世論が7割”という言説を鵜呑みにしている。

必要なのは「差別を禁止する法律」である。政権は「愛国的差別には反対」と言うが法整備は避けている。本当に必要なのは、偏見を是正する差別禁止法の制定である。